

## 2012年度秋季大会シンポジウム

## 「気象学が地域の未来にいかに関与できるか？」

## これからの北海道の地域づくりと気象学の研究」の報告

## はじめに

佐藤友徳\*1・中村一樹\*2・柴田誠司\*3

人類は古くから地域の気象に関係した文化活動を展開し、気象は地域の営みに深く関わってきたといえる。しかし、気候変動や異常気象など気象学会が従来研究対象として扱ってきた現象が、様々な形で人類に影響を与えることが危惧されつつある。2009年に開催された第3回世界気候会議では、気候サービスの提供者と利用者間の連携強化の必要性が認識され、利用者が意思決定に活用しやすい気候情報の提供を推進する「気候サービスのための世界的枠組み」を構築することが決定した。このような背景のもと、気象学の知見や予報の情報、学会としての活動は、どのような形で日本の地域社会へ貢献することができるのか検討する必要があると考えられる。

去る2012年10月4日、北海道大学学術交流会館にて開催された日本気象学会2012年度秋季大会にて、気象を活用した地域づくりをテーマに掲げて公開シンポジウムを2時間にわたり開催した。本シンポジウムでは、北海道における気候変動や気象に関連した課題を

自治体関係者が提起し、日本気象学会としてどのような貢献が可能か議論するという構成で講演とパネルディスカッション形式の総合討論を行った。これまでの気象学会のシンポジウムでは、自治体の研究所に所属する方が講演する機会があったが、本シンポジウムでは札幌市役所および占冠村役場において直接行政に携わる立場の方から貴重な意見を聞くことができた。また、参加者には学会関係者だけではなく一般市民や行政に携わる方々も多数見られ、300名近くの来場者があった。

総合討論では、講演で紹介された都市部・札幌と農村部・占冠の実情にもとづき、「気象学が貢献できる地域づくり」が議論された。討論の冒頭に地方行政の立場から気象学に対する要望と問いかけが行われ、研究者サイドから返答を行う形式で進められた。討論の具体的な内容は、各講演の要旨の後に掲載した。気象学(学会)に寄せられた要望としては、短期・長期の予報精度向上と、流域や自治体に特化した気候予測情報の提供、気象を題材にした教育や最新の知見の普及、の3点が挙げられる。

最後に、講演者、司会者として登壇して下さった方々、運営スタッフの方々、当日ご来場下さった方々に感謝いたします。特に学会での講演という日常の業務とは大きくかけ離れた講演の重責を快く引き受けて下さった札幌市の稲木課長、占冠村の中村村長に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

\*1 (連絡責任著者) 北海道大学大学院地球環境科学研究院, t\_sato@ees.hokudai.ac.jp

\*2 北海道大学大学院地球環境科学研究院(現:独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所)。

\*3 気象庁札幌管区気象台。

—2013年2月12日受領—

—2014年5月14日受理—

---

Meteorological Research for Regional Promotion  
—An Example from Hokkaido—  
(A Report on the Symposium of the 2012 Fall Assembly  
of the Meteorological Society of Japan)

Tomonori SATO\*<sup>1</sup>, Kazuki NAKAMURA\*<sup>2</sup> and Seiji SHIBATA\*<sup>3</sup>

\*<sup>1</sup> (*Corresponding author*) Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, North 10 West 5, Sapporo 060-0810, Japan.

\*<sup>2</sup> Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University (*Present affiliation: Shinjo Cryospheric Environment Laboratory, Snow and Ice Research Center*).

\*<sup>3</sup> Sapporo District Meteorological Observatory, Japan Meteorological Agency.

(Received 12 February 2013; Accepted 14 May 2014)

### Contents

1. Hiromitsu INAGI: A Relationship between Sapporo City and Meteorology.
  2. Hiroshi NAKAMURA: On a Vision of Shimukappu Village and Some Topics Related to Meteorology.
  3. Seiji TAKANO and Shuhei MAEDA: Recent Activities toward the Better Use of Climate and Meteorological Information through the “User Interface” Function of the JMA.
  4. Tomonori SATO: On the Use of Regional Scale Climate Projection.
  5. Makoto NAKATSUGAWA: Improvement of the Pre-existing Dams’ Functions Using Hydro-Meteorological Information.
-